



京阪園芸F&Cローゼ最新作「花見手箱」は、よりリアルな大規模咲き乱れる奇麗な花を想い出す情緒的な枝変わり
花村協力 京阪園芸 Rose Farm, LTD



土には善玉菌がいっぱい



バラ用 土壌改良・生長促進剤
菌の黒汁 ローゼズ
バラの生長促進を目的とし、土中に善玉菌(光合成細菌)を増やすための資材。与えることによって土壌中の有用微生物の増加を助け、有機物をすみやかに分解するので、土がみかみかになり、雑草の生育を大気中から土中に取り込み、植物の生育に必要なアミノ酸を生成し、植物の生長を助ける。褐色の液体で、原料は水、牛糞、光合成細菌。完全発酵しているので無臭で臭いも出ない。肌に触れても大丈夫。500ml 1,983円(税込)

つけ時から秋の開花前まで、どの時期からでも使用できる。量は原液を水で500倍に薄めて鉢や庭植えのバラの株元へ与えるか、葉面散布する。回数は1~2週間に一度、~2ℓが目安。多少多くても植物に対する影響は無い。野菜や樹木、草花にも使える。なか、油かす等有機物との併用が効果的。肥料成分が微量なので、肥料は別に与える。混用は避ける。

善玉菌 + 有機物 + 肥料
いいバラがよく育つ

良い土には、光合成細菌をはじめとする善玉菌が多いことは分かった。では実際にバラを栽培するにあたっては、善玉菌が主成分の資材だけを使えば良いかというと、そうではない。堆肥や腐葉土など有機物が、バラを栽培する土には、やっぱり必要だ。「善玉菌が生きるためには、有機物が必要。有機物が減ると、ナイトも減ります。逆に有機物だけでそこに善玉菌がいないと、良い土にはなりません」(小山内さん)。

肥料はいらないの？という疑問もわく。小山内さんはヒトにたとえて言う。「肥料は別に与えましょう。肥料は植物のための栄養分です。善玉菌はいわば土のための「肥料」で、ヒトが飲むヨーグルトと同じです。ヨーグルトは栄養分の吸収器官である腸の環境を調えるため、善玉菌が大きな役割を果たします。それと同じように、植物にとっての吸収器官である根を伸ばす環境を調えるために与えるのが、善玉菌の資材です」。

バラを栽培している土に有機物があり、肥料もちゃんと与えて、さらに善玉

菌を与えれば土が良くなり、バラはよく育つ。ほかの菌を使った製品との相乗効果もある。「光合成細菌は、ほかの菌とも喧嘩しません。菌を支えるための菌」といえるでしょう。それらの仕組みをよく理解して使いこなすと、バラはますます、拍車をかけて、よく育つようになりますよ！

栽培の鍵 小山内健さん(京阪園芸)
3月・6月・9月・12月に集中的に500倍液を葉面散布

●肥料ではないので、週に一回くらい、気が向いたときに普通の水やりのように与えても効果があります。多少分量が多すぎて多少なくてもOKです。●葉の上からかけると効果的。葉の光合成を促進し、アミノ酸が養分を補給するからです。●時期は、根が活動的になる3月初旬(啓堂(けいちつ)のころ)：バラが芽吹くころ(6月、9月、そして12月(冬の植え付け、植え替え時期)には集中的に与えましょう。●良い栽培環境の場所ではもちろん、あまり良くない栽培環境こそ効果的です。北側のベランダの鉢植えなどで土が乾きにくい場所を使用すると土の透水性が向上し、根腐れが止まります。逆に日が当たりすぎて乾燥する場所では、特にしっかりと使ってください。



小山内 健(おさないけん)
京阪園芸ローゼズリエ。バラの植物としての性質から、花が咲く仕組みの理解につとめる。花を咲かせるための、各種資材の使い方をはじめとする栽培方法の開発にも意欲を燃やして、新しい資材はまず使ってみて、効果的な利用方法を展開しアドバース。



‘妖精系ロザリアン’が、土の中を覗く ~善玉菌を使った資材を有効活用

小山内健さん(京阪園芸)

Attention!

土の中には目に見えない菌がたくさんいる。その菌は、「善玉菌」と「悪玉菌」に分かれ、「善玉菌」では、総称して土壌放線菌、乳酸菌、酵母菌など、「悪玉菌」はフザリウムなどがよく知られている。

得意のたとえで言うのは、小山内健さん。誰もが認めるバラ栽培の専門家と、バラをひと目見るやいなや、ばつと害虫や病気をみつける。植物大好き、虫も大好き!の自称「理系」だが、人はいつしか、妖精系と呼ぶようになった。

Attention!

「光合成」とは、水と空気中の二酸化炭素から炭水化物を合成し、水を分解する過程で空気中に酸素を発生させる、植物の持つ働きだ。一方、太古の地球上に最初に生まれた生命体と言われる光合成細菌の働きは、植物の光合成の働きとは異なる。●自らが光エネルギーを吸収して光合成を行って●二酸化炭素や硫化物など植物の生育に悪影響をおよぼす土壌中の物質を栄養にしながら●他の有用微生物のエサとなるアミノ酸などを生成し●自らも他の有用微生物のエサともなるという、いわば「善玉菌のための善玉菌」といえる。善玉菌による良い「連鎖」により、結果的にみかみかの良い土となるわけだ。

植物の健康を保つコツの1つは、実は見えない土の中に、「薬がイキイキ」をいはいでも少し、花が咲く」といふときは、ふかふかの土で根がよく張っているため、池に「死なないな」といふときは何かが土にも問題が、植物がよ。育つとは、根をよえ養分を吸収する根が伸びやすい環境にあり、根が伸びやすい土はふかふか、善玉菌がいっぱいいます。見えない土の中を、妖精系ロザリアン、小山内健さんの目で覗いてもらいました。

善玉菌は根を守る「ナイト」。

「土がふかふかだとバラの根は、安心して、良く伸びます。根が太く長く伸びると、枝も伸び葉が茂って良い花が咲きます。ふかふかの土には良い菌!! 有用菌(善玉菌)がたくさんいます。それは根が安心して伸びることを守ってくれる「ナイト(騎士)」のようなものです」。

太古からある善玉菌・光合成細菌

善玉菌の中でも光合成細菌は代表的な一つ。妖精系・小山内さんの話は続く。「光合成細菌は、多くの善玉菌が空気を必要とする中、唯一水分が多くて大丈夫な菌。この菌は水の中でも乾燥していても、少々暑さでも寒さでも活動します」。

花をたくさん咲かせる

オーガニック資材 **これがおススメ!**

バラのためのオーガニック資材として、私が自信を持っておススメできるのは、①稲ワラ馬フン完熟堆肥 ②有機100%液肥 ③菌の黒汁の3つです。実は私は長年の腰痛持ち。愛するバラの手入れも、できるだけ少ない労力で済ませたいと思い、いろいろな方法を試した結果たどり着いたのが、この3つでした。いずれも大きな効果がありますが、その科学的な根拠も私の医師としての経験と知識を生かして検証してあります(次ページ以降参照)。この3つがあれば、無農薬、無化学肥料でも美しいバラが咲くこと間違いなしです。



「稲ワラ馬フン完熟堆肥」

草食である馬のフンを発酵させた堆肥です。腰痛持ちの私は、牛フン堆肥より軽量という理由で庭の土に混ぜて使ってみたところ、バラの生長が飛躍的に良くなったことから愛用しています。現在の製品は以前よりフカフカに改良されています。以前は一度水でペースト状にして再度、培養土と混ぜるなどしていましたが、その手間もなくなり、いっそう使い勝手が良くなりました。そのまま培養土に混ぜ込んでもOKです。

バラの生長に驚きの効果



「有機100%液肥」

トウモロコシを納豆菌で分解した有機100%の液肥。P.30で紹介したように、うどんこ病予防にも効果がありますが、本来は即効性のある液体肥料として開発されたものです。チッソ(葉や茎の発育を促進)・リン酸(花付きを良くする)・カリ(根の発育を促進)が3・3・2の割合で含まれており、秋バラの開花も見違えるほどです。化学肥料と異なり、毎日使っても弊害がないので、初めてバラを育てる方も安心して使えます。

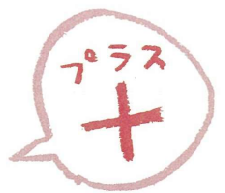
素晴らしい秋バラも見たいならコレ



「菌の黒汁」

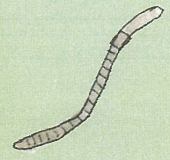
光合成細菌が入った液肥。「光合成細菌」というのは耳慣れない言葉かもしれませんが、実は地球上に酸素を生み出した重要な菌で、われわれ人間を含め酸素を吸うすべての生き物は、この菌と共生関係にあります。この菌は光合成によって酸素を生み出すだけでなく、体内にアミノ酸やビタミンなどの栄養素を豊富に含むほか、植物の生長に有害な物質を分解する働きもすると考えられており、農業や環境など、さまざまな分野で注目を集めている菌なのです。

いま注目の強力な助っ人



ミミズ

ミミズは資材ではありませんが、良い土を作るための重要なスタッフです。ミミズが土中の枯れ葉などを食べて出すフンが肥料となり、ミミズが土の中を動き回ることによって土が耕され、空気や水の通り道ができて植物の根にそれらが届くのです。



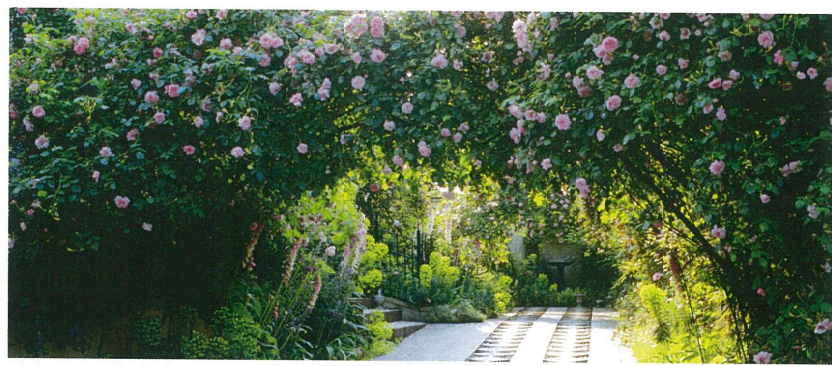
お悩み解決！ Dr.真島のオーガニック栽培法



Dr. 真島康雄

まじま やすお / 肝臓や脳梗塞・心筋梗塞の予知・予防のエコ専門医。福岡県在住。自宅と病院、2つの庭を持ち、現役医師として科学的な根拠に基づいた無農薬でのバラ栽培を行っている。

オーガニックによるバラ栽培は、健康的で環境にも優しい方法です。農薬や化学肥料が、病虫害の防除と同時に本来良い働きをする多くの生物も排除してしまうのは反対に、オーガニックでは目には見えない土壌微生物や菌類、昆虫や鳥達など、たくさん生き物を仲間にしてバラを育てます。Dr.の庭では土づくりから病虫害対策まで、すべてオーガニックで毎年素晴らしい花を咲かせています。



Dr. 真島の自邸の庭。オーガニック栽培で夢のように美しい庭風景を実現しています。

Dr. 愛用品の オーガニック 資材

オーガニックによる栽培方法もさまざまありますが、Dr.真島は誰でも手に入れやすく、手軽に利用できる資材を使った方法を完成させました。これまでガーデニング誌「B I S E S (ビーズ)」や著書で実験結果をお伝えしてきた通り、長年の観察と実験を経て選んだ、少ない資材と労力で高い効果を期待できる愛用の商品を紹介いたします。

菌の黒汁ローゼス



原始地球の生命の進化に関わる光合成細菌を含む土壌改良剤。植物の生育を促進し、黒点病予防も期待できます。/ヤサキ

稲ワラ馬フン完全堆肥



腰痛持ちのDr.がより軽量のものにとどりついた堆肥。さまざまな馬フン堆肥の中から、酵母菌入りのものを愛用。/平田ナーセリー

有機100%液肥



トウモロコシを納豆菌で分解した液肥。アミノ酸を含み、肥料としての即効性があるほか、うどんこ病の予防にも活躍します。/平田ナーセリー

バラの2大病を オーガニックで 解決



黒点病



うどんこ病

葉のところがうっすらと粉を吹いたようになり、放っておくとバラが次第に衰弱し、最終的に枯れてしまいます。かかりやすいバラと、そうでないバラがあるので、品種選びの際の手がかりになるとよいでしょう。

解決法

有機100%液肥の100〜200倍希釈液を週1回、葉に散布します。液肥の中の納豆菌がうどんこ病原菌に働きかけ、病気を予防します。実験では初期のうどんこ病には治療効果がありましたが、散布はあくまでも予防的に行います。

解決法

菌の黒汁と有機100%液肥の100〜200倍希釈混合液を週に1回、葉に散布します。菌の黒汁の中の光合成細菌が黒点病原菌に働きかけ、病気を予防します。この場合、有機100%液肥は展着剤として使います。

丈夫に 育てることが 最善策



Dr. 真島開発の「夢油肥」
/平田ナーセリー

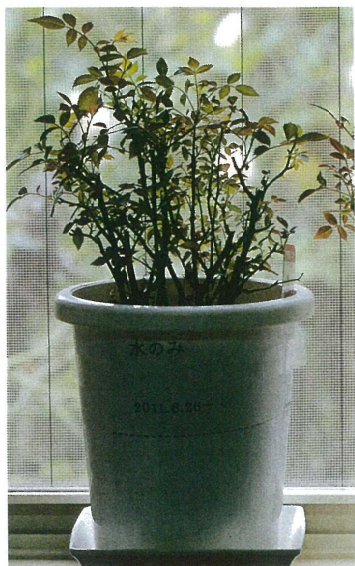
健やかに丈夫に育ったバラは、たとえ病虫害被害にあっても自身で立ち直る強い力を持っています。バラを健やかに丈夫に育てるためのオーガニック肥料を求めて、Dr.真島が実験を繰り返して開発したのが手作り肥料の「夢油肥」です。材料は家庭にある使用済み食用油(未使用でも可)0.5ℓと油粕1.5ℓ、稲ワラ馬フン完全堆肥4ℓ、そして発酵過程の臭い消しのための菌の黒汁と燻炭。これらを混ぜて二段階に渡って発酵させると、バラの生育を飛躍的に促進し、弱った株も復活させる即効性の「夢油肥」が完成します。さらに詳しいつくり方は誌上や著書で紹介していますが、つくる時間や場所のない方のために製品化もしています。



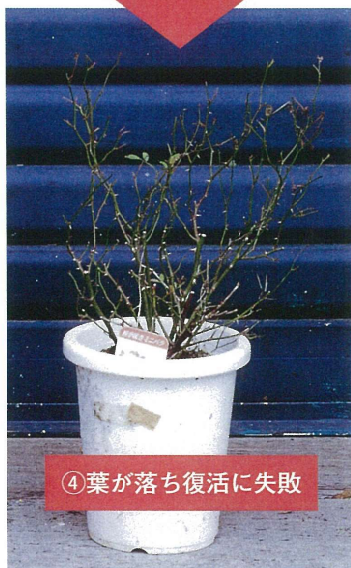
ミニバラでの肥料比較実験。夢油肥を施肥した株は左2つと比べて2倍以上の大きいです。

結論

「菌の黒汁」の併用で「有機100%液肥」の効果は倍になる。
一方、菌の黒汁の単独使用では効果がない。



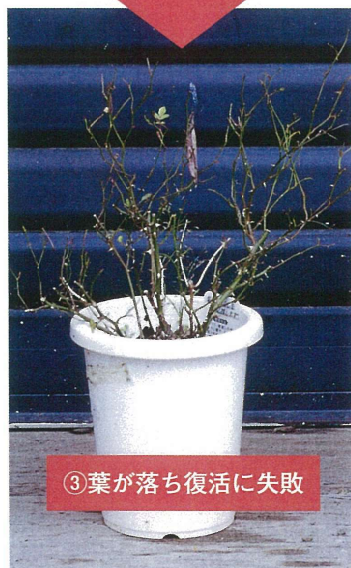
水のみ



④葉が落ち復活に失敗



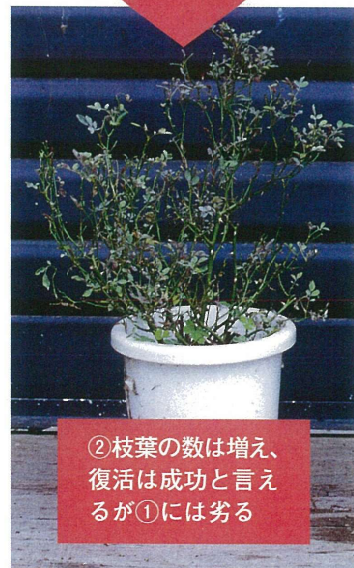
菌の黒汁



③葉が落ち復活に失敗



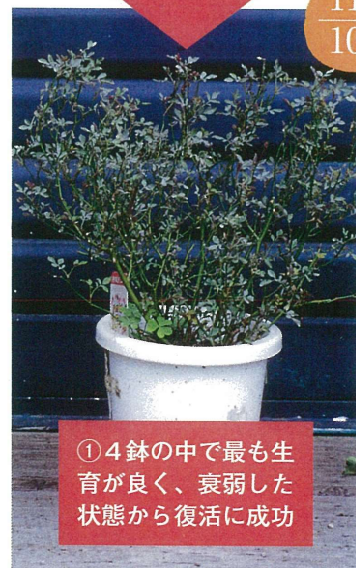
有機液肥



②枝葉の数は増え、復活は成功と言えるが①には劣る



有機液肥 + 菌の黒汁



①4鉢の中で最も生育が良く、衰弱した状態から復活に成功

6月
26日

11月
10日

「有機100%液肥」+「菌の黒汁」という組み合わせの効果を検証する実験をしました

養分がほとんどなくなってしまう鉢植えのミニバラ、ハッピーパソル、を4鉢用意し、「有機100%液肥」と「菌の黒汁」を使って弱ったミニバラが復活するかどうか実験しました。